

一般社団法人品質工学会/規程】規 0011 号

品質工学会日本規格協会理事長賞審査基準

主管 審査表彰部会

制定 2015 年 12 月 14 日

改定 2020 年 12 月 10 日

第 1 章 総則

(目的)

第1条 本基準は、一般財団法人日本規格協会（以後日本規格協会と称す）から贈呈される品質工学会日本規格協会理事長賞（以後理事長賞と称す）の審査を円滑に行えるよう品質工学会日本規格協会理事長賞規程第 1 章 8 条に示される審査基準を定めるものである。

(趣旨)

第2条 日本規格協会が品質工学会の前身の品質工学フォーラム設立以前から品質工学の普及について長年積極的な活動を行ってきたが、この活動を社会的な形として表すために、理事長賞を寄贈することになった。

2. 品質工学の普及の促進、および、高品質による社会損失の削減、産業生産物による環境負荷、廃棄・排気などの副作用の削減を行うための知識の伝搬と、標準化と品質管理の普及・推進に寄与しようとするものである。

3. 賞を選定する基準は、広く日本の標準化に貢献すると思われる成果に対して与えるものであるが、品質工学の実践と普及をとおし個別企業や研究組織などの組織体への継続した貢献ないしは社会への貢献を重視する。

(対象と範囲)

第3条 賞を授与する対象は、品質工学を実践し普及した、あるいは現在も実践・普及している個人または組織体を対象とする。

2. 賞を授与する対象は、品質工学会に所属する学会員、学会員が所属する組織体、あるいは、学会員を含む公的機関や学術団体とする。

3. 賞を授与する対象は、自薦・他薦を問わない応募者を対象とする。

4. 本賞を受賞した者の再応募は認めない。

第 2 章 審査体制と手順

(審査体制の設置)

第4条 当学会は、品質工学会日本規格協会理事長賞規程に則り品質工学会と日本規格協会の間で理事長賞審査委員会を設置する。

2. 当学会は、審査表彰部会内に理事長賞予備審査部会を設置するとともに、審査事務局をおく。
3. 審査事務局は、審査表彰部会長の指名により構成するものとする。

(審査の流れ)

第5条 審査は以下の流れをもって実施される。

2. 理事長賞予備審査委員会で候補を審議する。
3. 理事長賞審査委員会は、予備審査過程を審議するとともに、候補が審査基準にあるかどうかを審議し賞にふさわしいもの決定する。
4. 当学会の理事会は、理事長賞審査委員会からの報告を受け、理事長賞を審議、決定する。

(運営)

第6条 審査表彰部会は、審査を円滑にするために、部会長会の承認をもとに賞の募集を行う。応募は、会誌に会告する。

2. 審査は、応募をもって開始する。推薦者または応募者は、推薦書あるいは応募書を審査事務局に提出する。
3. 審査事務局は、応募を整理し審査を円滑にするための業務を行う。
4. 事前審査委員会は、応募された候補を第 7 条に示す基準に照らし合わせて事前審議し、賞候補を選定する。
5. 審査表彰部会は、予備審査の過程と選定した候補を理事長賞審査委員会に報告し、審査を円滑にするものとする。

第 3 章 審査基準

(審査基準)

第7条 審査は、日本規格協会が長年品質工学を推進してきたことを踏まえ、品質工学に関連して広く日本の標準化に貢献すると思われる成果を優先するものとする。

2. 審査は、受賞応募対象が品質工学の実践と普及をとおり、個別企業や企業内組織、公的団体や学術組織などの組織体ないしは社会への継続した貢献の度合いを審査する。
3. 審査項目は、標準化ならびに標準を利用した実践、品質工学会への投稿・活動実績、社内や組織内での活動、品質工学会誌以外への発表実績、品質工学に関連する著書、雑誌などへの掲載および出版、組織内外での品質工学に関する受講実績、組織内外での教育実施、社内外での指導、コンサルティング経験、組織的普及機会の提供、その他として実践・普及・推進の項目で審査する。
4. 審査は、第 7 条 3 項の項目を含む応募書に記載された実情を分析するとともに、その客観性を確認し、賞の趣旨を十分に満たすかどうかを確認する。
5. 審査は、実践の多さと質、普及の範囲とその質、所属する組織への成果や社会への貢献の度合い基準とする。

第4章 候補者の応募

(応募)

第8条 応募者は、応募書により応募される。

2. 応募者については、応募書に第7条3項に記載される項目について事実を記載されるものとする。
3. 応募は、会誌に会告されるものとする。
4. 応募は、応募締め切りに間に合ったものを原則とする。

第5章 他の賞との関係

(賞の重複)

第9条 本賞は品質工学会の今までの賞とは異なる観点で選定されるものである。従って、他の賞との重ねた受賞は妨げない。

2. 他の賞とは、田口賞、精密測定技術振興財団品質工学賞発表賞と論文賞、ASI賞、品質工学会研究発表大会における品質工学会会長賞と実行委員長賞、品質工学会学生賞である。

第6章 改訂および廃止

(改廃)

第10条 この規程の改廃は、主管組織または理事の発議に基づき、主管部門が立案し、理事会で決議するものとする。

第11条 応募書の改訂については、審査表彰部会の審議をもって対応する。

付則

1. 本規程は、2015年12月14日より施行。

その他

付議事項

1. 品質工学会は、規程の運用ならびに改訂・廃止に当たっては、一般財団法人日本規格協会と連絡を密にとることとする。
2. 応募書を参考のため添付する。

改定記録

◇ 2020年12月10日

当学会が任意団体から一般社団法人へと移行したのに伴い、見直しの上で改定。

参考添付資料（改定 2020 年 12 月 10 日版）

XXXX 年 品質工学会日本規格協会理事長賞応募書

応募年月日 年 月 日

（一社）品質工学会

会長 XXXXXXX 殿

（ふりがな）

応募者： _____ 印

連絡先（〒 _____） _____

TEL： _____ FAX： _____

E-mail： _____

1. 受賞候補者：

候補者名 _____

会員 NO _____

連絡先（〒 _____） _____

TEL： _____ FAX： _____

E-mail： _____

- ・ 候補者名，所属，連絡先を記載ください。
- ・ 組織体の場合は組織体名および組織体代表者を記載ください。その場合、組織体に所属する品質工学会の氏名と会員ナンバーを 1 名記載ください。

品質工学会所属者氏名： _____

会員 NO： _____

- ・ 応募者と同じでもよい。

2. 推薦者：

連絡先（〒 _____） _____

TEL： _____ FAX： _____

E-mail： _____

- ・ 推薦者名と所属，連絡先を記載ください。
- ・ 組織体の場合は組織体名と推薦責任者名を記載ください。
- ・ 自薦の場合，応募者，受賞候補者は、同じにしてください。

以下の「3. 推薦理由」と「4. 推薦理由となる具体的実践・普及の業績内容」については2ページに示すガイドを参照し、自由形式で作成ください。

作成した資料を応募書の具体的内容は、2ページ以降の項目に従い、記載ください。

なお、記載事項のない項目には、「記載事項なし」としてください。本資料の赤字で示したところは、記載を補助する記述ですので、提出する応募書には削除ください。

<応募書作成のガイド>

以下の項目について、自由形式で作成ください。

記載事項のない項目については「記載事項なし」としてください。自薦の場合は、推薦理由を応募理由として書き換えてください。

上記赤字のところは、消去して作成してください。

3. 推薦理由：

賞の趣旨に鑑みて、実践状況、普及状況およびその業績をもとに推薦理由を記載ください

4. 推薦理由となる具体的実践・普及の業績内容

推薦の理由となる具体的活動内容を以下に示す項目について具体的記載ください。記載したい内容のないときは「記載なし」としてください。下記に記載された項目以外に賞の趣旨に関連して推薦する理由があるときには、項目を追加して記載ください。

なお、可能な限り、審査過程でその内容が確認できるようリストください。(確認できる資料のコピーがあれば添付ください)

4.1 標準化への実践：品質工学に関連した国際規格，日本工業規格，各団体規格，社内規格の制定実績

- ・ 制定団体，規格 NO，規格タイトル，規格制定年度

4.2 品質工学学会投稿ならびに活動実績：

- ・ 掲載論文，題名，発表年度，(筆頭，連名)
- ・ 掲載論説，解説，発表年度
 - ・ 大会発表数 題名，発表年度
 - ・ 品質工学関連受賞数，受賞論文題名，受賞時期，授賞の名称，授賞者
- ・ その他，投稿，題名，発表年度
 - ・ この1年および，過去の実績
- ・ 表彰実績
 - ・ 論文賞，大会賞，ASI 賞，会長賞，実行委員長賞
 - ・ 貢献賞

・その他

4.3 社内（組織体内）発表：社内における品質工学関連の実践，表彰などの実績

- ・社内発表会，名称と発表件数
- ・社内報告数，その題名，報告年度
- ・社内表彰実績
- ・普及などの関する活動記録：普及活動名，普及による実践数，教育者数など

4.4 品質工学会誌以外の発表：各専門学会，団体に発表がある場合の実績

- ・各学会，団体での発表実績：題名，会誌名，学会名，発表年月日など
- ・品質工学に関連する国際会議，大会，ASI のフォーラムなど
- ・受賞実績

4.5 著書：本，雑誌などへの掲載・出版実績

- ・書籍：タイトル，出版社，初版年度
- ・雑誌掲載：題名，雑誌名，出版社，掲載年月
- ・書籍，雑誌などの発行実績：書籍名，出版社名，年月日，発行の役割
- ・受賞実績

4.6 教育受講歴：教育の受講，主催実績

- ・社外（組織体外）セミナー受講歴：セミナー名，セミナー団体，受講年月日，人数
- ・社内（組織体内）セミナー受講歴：教育名，主催者，受講年月日，人数
- ・受賞実績

4.7 教育実施：社（組織体）内外への教育の教授，講師，主催など

- ・社外組織への講義実績：教育名，主催者，実施実績
- ・関連会社への教育実施：教育名，主催者，実施実績
- ・教科実施：授業名，開催数，卒業者数，論文実績数（タイトル，年 月日）

4.8 指導実績：コンサルティング，指導実績

- ・社内コンサルティング実績：指導テーマ，指導組織，指導年月日
- ・社外コンサルティング実績：指導テーマ，指導組織，指導年月日
- ・受賞実績

4.9 普及実績：組織としての研究会の開催，マネジメントとしての組織設計と運用など

- ・研究会の主催・開催：研究会名，研究会開催実績，研究成果（外部発表など）参加団体数，参加メンバー数などの実績
- ・組織設計：組織のマネジメントに当たり，品質工学の実践・普及のための組織設立，戦略設定，運用などの実績
- ・普及組織のマネジメント経歴：団体，職位，所属年月日
- ・受賞実績

4.10 その他

- ・品質工学の実践，普及，推進のために行った実績

以上